

# 特別対談 実りあるはなし

Talk theme  
トークテーマ

わたしたちがめざす

## 「日本一元気なまち」

70周年を迎える九度山町  
これまでを振り返って

岡本町長…私は今72歳で、生まれた頃を想像してみると、あの頃は林業が盛んでしたね。合併した河根村は林業で栄えた村だったので、九度山には果樹栽培と林業がありました。70年経って振り返ると、柿のブランド化はできましたが、林業は後継者不足などで非常に弱ってしまいました。

北川さん…現在の道の駅がある場所は貯木場だったんですね？

岡本町長…そうですね。元は国の営林署でして、高野山の近くで切り出された木をトロッコで

運び、川に木を流して運送していました。子どもの頃に見た、トロッコが木を運ぶ風景は記憶に残っています。さらにもう少し昔の話で言うと、南海電車も当時は高野下駅までしか走っていませんでした。みなさんそこから高野山に歩いて向かっていたので、高野下駅がある推出という地域にはその方たち向けの旅館がたくさんあり、その地域はそれで発展しましたね。

### 九度山町との 関わりについて

北川さん…学芸員をしていた大阪城と上田城の友好提携調印式



の際に、上田市の姉妹都市として岡本町長に立会人に来ていただいたことがきっかけですね。

北川さん…北川先生が大阪城を退職されて九度山に来られた際に、私の忍者道具をミュージアムに寄託したことからですね。

桜花さん…大阪城と上田城の友好城郭提携1周年記念で、真田幸村のミュージカルが行わ

れ、見に来られていた岡本町長から「信州上田公演は決まりましたよ」と言っていたいただいたのを覚えています。それからずっと真田幸村の役をさせていただいて19年のお付き合いです。

### 現在の観光振興における 地域資源の活用

岡本町長…20年前、九度山の観光について職員の方々と話したんです。実は歴代町長は真田に全く目を向けていなかったんですね。そこで、まず切り口として九度山町を「まちなか」「世界遺産」「自然体験」の3つにわけて、「まちなか」は真田幸村に



絞りました。

尼子さん…町長がおっしゃるまで真田は活用されてなかったんですね。

岡本町長…そうですね、全く触れられていませんでした。その他にも、くじやま芸術祭というイベントもやっています。役場職員と作家さん、町民が同じ方向を向いて一緒に力を合わせているのが1番の特徴です。町民の方々も職員もみんなやる気がありますし、恵まれていると感じます。

桜花さん…そんな方々が集まってくるのは、岡本町長の人柄でもありますよね。

北川さん…同じ九度山町でも、玉川峡の方に行くと、また全く

違う世界ですよ。

岡本町長…あの辺りは自然体験ゾーンという位置付けにしています。自然ももちろんですが、昔の小学校を活用した森の童話館という施設があります。ぜひ行ってみたいですね。あとは、道の駅も大きい観光の役割を担っています。町外だけではなく、近所の方にも使っているだけです。



### これからの観光に 必要なこと

岡本町長…その場所で食べるものやお客さんを迎える気持ちなど、景色や名所以外の何かを見つけないと力を入れていけば、まだまだお客さんも来てくれると思いますし、チャンスはあると感じています。

尼子さん…それで言うと九度山はそばですよ。

岡本町長…そうですね。幸村庵というところで長野県の信州そばを提供しています。真田ゆかりの信州そばが九度山で食べられるのが珍しくて人気です。



九度山町長  
岡本章



九度山・真田ミュージアム  
名誉館長  
北川央



九度山町文化・観光大使  
桜花昇ぼる



漫画家  
尼子騷兵衛

最期の戦いに備えた  
九度山に残る足跡

九 度山町は、日本一の兵と呼ばれた真田幸村ゆかりの地。

慶長5年(1600年)、関ヶ原の戦いに敗れた真田昌幸・幸村父子は、高野山へ流され、まもなく麓の九度山に移りました。九度山では、嫡男である大助とともに訓練も怠りませんでした。時は流れ、慶長19年(1614年)、幸村と大助は九度山を後にし、大坂冬の陣へと出陣。翌年に起きた夏の陣で幸村は壮烈な最期を遂げます。この戦いぶりを讃え、幸村は「日本一の兵」と後世に語り継がれています。

九度山町には幸村の足跡が随所に残され、人々の心に生き続けています。

九度山・真田ミュージアム

真田三代の物語を後世へと語り継ぐことを目的とした施設。14年間という幸村の生涯で最も長い時間を過ごした、九度山での生活を、資料やジオラマ、映像、パネルなどで紹介しています。



紀州九度山真田まつり

毎年5月初旬に開催される九度山町内の大イベント。真田鉄砲隊の演武や武者行列、飲食ブースやステージショーなどで盛り上がります。



真田幸村ゆかりの地

真田の赤備え

甲冑などの武具を赤で統一した編成。大坂の陣で、真田幸村は赤備えの軍を率いて壮烈に戦い抜いたと言われています。

日本一の兵



真田庵

真田昌幸・幸村父子の屋敷跡に建てられた寺院。境内には土蔵造りの資料館もあり、真田家や寺を建立した大安上人に関連する資料が展示されています。

真田古墳(真田の抜け穴)

6世紀頃の古墳で、「かつて真田幸村はこの抜け穴を使って戦場へ出向いた」という伝説が残っています。



特別対談 実りあるはなし



「日本一元気なまち」をめざした取り組み

岡本町長「日本一元気なまちづくり」とはなにかというと、町民の方々がいきいきと生活できる場所をつくることです。行政と町民が一緒に元気にやっつけていこうという思いが強いですね。観光の分野で言いますと、世界遺産や自然、今のまちなみなどをそのまま残したいと思っています。あとは、少子高齢化に対応するために若者が住める条件づくりにも取り組んでいます。若者向けに新たに住宅を建てたり、学校給食や中学生の医療費を無料にしたり。子どもがいないとまちの将来はないので、そういうところに力を入れて「元気なまちづくり」を進めていきたいですね。

尼子さん「九度山のまちなみを通るとき、ゆっくり歩きたいなと思うんですね。だから町長の「残したい」という言葉が心強いんです。まちなみを残して、町長がどんな風に活用されるのか楽しみです。

北川さん「僕もまちなみや町民の人情が満ちあふれる今の雰囲気は残ってほしいです。でもそれだけでは繰り返して来られないと思います。この真田ミュージアムは、常設展示だけではなく企画展の会場も作っており、『落第忍者乱太郎』の原画展や忍者道具の展覧会など、いろいろなことをしています。こういう変わるところお寺やまちなみなどの変わらなところを組み合わせ、九度山町の良さを何度も体感してもらえるようにしたいです。

桜花さん「私は、九度山の山や川、空気が大好きです。九度山は幸村が人生のうちで14年という最も長い時間を過ごした幸せの

村です。そんな暮らしを「九度山く愛しき日々」という素晴らしい歌にしていきたい、大切に歌っています。九度山の情景が浮かぶこの曲を、全国の皆さんに知っていただきたいと思っています。

これから向かっていく九度山町の未来

岡本町長「町長をさせていただいて20年。これからどうしていくかを考えると、「今をどう伝えていくか」ということだと思っています。まちの歴史を子どもたちに伝えて、どう未来を託すか。教育や少子化対策は基本的にやっているの、それに付加価値をどうつけるかということが大切だと思います。そして、大きな夢を持って生きていくべきだと思います。

北川さん「生まれて65年経ちますが、今の世の中は想像できま

せんでした。携帯電話やインターネットが普及し、昔に比べてとても便利になりました。けれど、便利になることが必ずしも幸せになるとは限らない。先ほど桜花さんがおっしゃったように幸村は幸せな村と書くので、それにふさわしい、幸せを実感できるまちになってくれたらうれしいです。

尼子さん「私は町民が幸せなまちが良いまちだと思うんです。だから、町民の幸せを第一に考えてくださる岡本町長がいらっしゃるというのは、九度山町の未来は明るいと思います。これから町長がみなさんの幸せのために、どんなことをされていくのか楽しみです。

桜花さん「継続や繁栄というのは、新しいものを取り入れながらも積み上げてきたことを大切にすることだと思っています。岡本町長がここまで盛り上げてくれたことを、これからの未来もずっと大切にしていきたいと思っています。